

平成29年度 第2回庄内町行政改革推進委員会 会議録

- 1 開催日時 平成29年10月19日(金) 18時30分～21時00分
- 2 開催場所 庄内町役場 西庁舎 第二会議室
- 3 出席委員 工藤隆、齋藤幸雄、佐藤正義、志田重一、大瀧礼子、大滝美香、金井昌弥、長南美香
- 4 欠席委員 斉藤徹史、小林洋平
- 5 説明員 【総務課】齋藤主幹、五十嵐危機管理係長 【農林課】富樫課長、山本森林水産係長
【情報発信課】加藤課長補佐兼地域振興係長、齋藤情報発信係長
- 6 事務局 小林情報発信課長 樋渡主査兼企画調整係長、佐藤

1 開 会 (18:30)

2 委員長あいさつ

3 確認事項等

(1) 平成28年度の行政評価を踏まえての取組について

【事務局より説明】

追加の評価事業はなし

(2) 町の指定管理制度の状況について

【事務局より説明】

追加の評価事業は以下のとおりとし、次回以降ヒアリングを行う。

- ・農林課：庄内町農産物交流施設管理運営事業
- ・商工観光課：温泉施設管理事業
- ・商工観光課：新産業創造館管理事業

4 協 議

(1) 平成29年度事務事業評価の外部評価(所管課ヒアリング)

■施設整備費 【総務課危機管理係】

【委員長】 これより所管課ヒアリングに入りたいと思います。事業の目的、今後の状況等説明をしていただければと思います。よろしくお願いします。

【説明員】 消防の施設・防火水槽等全町的に整備されておりますので、数も膨大になっています。年数もたっていて、修繕が必要なものもあります。修繕も対応できないものであれば、新しいものに代えるというやり方もしております。オーバーホールというやり方も取っております。消火栓を新しく変えるよりは割安に維持向上できるというやり方になっております。防火水槽等については修繕等にかなりの費用を要するのでなかなか修繕等で対応できないという部分もありますが、その都度確認しながら対応しているという状況です。もの自体が古くなっており、数も多いため、修繕費はかさんでいるという状況ですが、担当課としては一定の予算要求をして、その中で優先順位を付け対応しています。更新等は数も多いので、今の状況では難しいですが、現場の状況を分かっている自治会長や消防団から話を聞いて、その都度職員が現場確認をしながら対応している状況です。

【委員長】 それでは質問を求めます。

【委員】 その都度対応しているということだが、具体的に地区を指定する等の修繕計画はあるか。

【説明員】 今の段階では計画はありません。消耗度が高いところから直しているという段階。もの

によっては工事費で対応している部分もあり、根本的に機能を改善させているところもあります。

【委員長】 最近使われていない防火水槽もあるようだが、それに依存している集落もあるのではないか。

【説明員】 集落のみなさんからのニーズは高いです。さびたりしているところもあるが、予算を見ながら対応しているところです。

【委員長】 消防設備がかなり老朽化しているがその辺の認識はいかがか。

【説明員】 ホースについては一定程度更新しています。だいたい3年に1度は新しいものを支給している状況です。

【委員長】 計画をたててやるのは難しいのか。計画がないと年度末に予算状況を見て購入ということが行われるのではないかと思う。

【説明員】 消防団のみなさんがチェックしている状態で、ホースの口の不具合だったり看板が取れていたりという確認をしてもらいました。その結果を整理して、順次修繕しています。いつこわれるかはわかりづらいので、チェック結果をもとに予算要求しながら整備を図っています。

【委員長】 今後、担当課でも予算要求の増額を考えているが、来年度に限らず増額として見込んでいるものはあるのか。

【説明員】 ホース乾燥棟の階段等が腐食しているところもあるが、ホースだけを乾燥させる施設への切り替えをし、警鐘については低いところに移設するという方向で進めています。ただ工事費という予算になるので、1年に1ヵ所というペースで更新を進めています。

【委員長】 工事費の大きいものは計画をたてることはできないか。

【説明員】 工事費が大きいものについては、計画は立てられると思います。

【委員】 水の出ない消火栓については、町でみてもらっているが、防火水槽については、集落でみたことがない。相当の数はあると思うが、ABC等でランク付けするなどをして、点検をする名簿がなければ、万が一火事になった時に困る。それを自治会長にも共有してほしい。

【説明員】 台帳はあるので、自治会長等と一緒に点検していただければありがたいです。

■庄内町木質ペレットストーブ導入事業 【農林課森林水産係】

【委員長】 事業の目的、今後の状況等説明をしていただければと思います。よろしくをお願いします。

【説明員】 この事業の関係では、目的は森林資源の有効活用を図り森林の適切な整備による保全に寄与することとし、町内の住宅や事業所等にペレットストーブ、薪ストーブ、チップストーブを導入する者に対して補助するものです。現状は、環境に良いという観点から興味を持って、購入する人も増えてきています。電気ストーブ等と比べて、導入時にコストがかかるという問題点もあるが、森林資源の有効活用ということで、町内の方にペレット工場も出来ているので、今後の間伐材の利用という意味でも効果的な事業ではないかと思えます。今年度は6基予算を見ておりますが、7台の申請が来ています。今後も導入の見込みがあるということで、9月には補正予算対応をしたところです。利用者の口コミ等での広がり申請者は増えてきており、業者には林業関係団体の委員の方もいるので事業のPRを行っているという状況です。

【委員長】 それでは、質問を求めます。

【委員】 まだまだ宣伝が不足していると感じる。企業課だと広報紙を出しているが、あのようなイメージでやってもらえれば、より周知を図れるのではないか。どのようにお考えですか。

【説明員】 委員の意見に同感で、ペレットストーブ自体がどういうものかというのを分かってもらえていないと思っており、道の駅しようないに1台設置しています。その効果もあって、今年申請が伸びているのではないかと思います。業者も勧めた時に、実際使っているところがあつた方がよいと思い設置しました。新庁舎の建設も今後あるので、できれば町民の

皆様が多く来るところに置く場所を確保してもらえないかと担当課に要望を出しているところですが、実物を見てもらうことは効果的で、町の林業を育成していくという意味で普及させていかないと行けないと思っています。間伐材の継続的な利用という面では、薪やペレットの燃料として使っていくのが一番いいと思っています。ぜひこれは普及していきたいと思っていますので、なるべく公共の場所にも置いて、実物を見てもらいながら、周知していきたいと思っています。

【委員】 ペレットがどこにどのくらい出ているか教えてもらえるか。

【説明員】 町内にあるペレット工場の原料は、町内の間伐材というよりは松くい虫に被害のあった松が多いと聞いています。全国的に見ても、ペレットを使った発電事業も盛んになってきていて、原料が不足しています。町で一番使っているのは北月山荘で、年間 150 t。年間ボイラーとして使っているので利用が多いです。今の課題は、冬場の利用が多いので、燃料を保管しておく場所が必要。燃料の価格は、これからますます利用が増えれば抑えられると思います。

【委員長】 北月山荘で使っているのは、庄内町からでた間伐材か。

【説明員】 それだけではないと思います。これからますます普及していくためには間伐材を使うルートを整備していかなければなりません。今のペレット工場の原料のメインは松だが、間伐材と言えば杉です。間伐材を運ぶ手間がかなりかかると聞いているので、そういった林道の整備等総合的に考えていく必要があります。今、需要としては発電事業でも使っているので、見込めるとは思いますが、この事業と間伐材の利用促進を組み合わせればよいと思っています。

【委員】 灯油ストーブとペレットストーブを比べた時に、ペレットはエコだと思うし、県からも助成もある。

【説明員】 町と県の助成をあわせると 15 万円になりますが、導入コストは他のストーブと比べて高いのは確かです。

【委員】 家庭でペレットストーブはひと月でどれくらい使うのか。

【委員】 使う時間や火力、置く場所にもよるが、朝から晩まで使って 15kg くらいは使うと思う。

【委員】 町内ではペレットは買えないのか。当初買われた方がとてもエコに興味がある方で、普及すれば価格が下がると思っていたが、なかなか下がらないので、そこがどうにかなればよいと思う。

【説明員】 工場も需要に応じた量しか作ってはいませんが、もっと対応できると聞いています。ペレットを買う場所が近くにないという声もありますので、それらの課題を解決しながら、もっと普及に努めていきたいと思っています。

■マスコミ等情報発信推進事業 【情報発信課情報発信係】

【委員長】 事業の目的、今後の状況等説明をしていただければと思います。よろしくをお願いします。

【説明員】 この事業の概要は、1つ目として情報発信シートによるマスコミ 16 社への情報提供、2つ目に8月の庄内空港2階出発ロビーへの大垂幕掲示、3つ目にモンテディオ山形のホームゲームでの大型映像装置によるCM広告、最後に雑誌・フリーペーパー・新聞等への広告掲載です。これらによりまして、町の取組や魅力発信に取り組んできたところです。情報発信シートはマスコミに町の取組を取り上げてもらうための重要なツールであることから引き続き積極的な活用を各課に促していく必要があります。広告については、限られた予算の中で最大限の効果を上げるための適切な予算配分について、なかなか町だけで徹底するのは難しい状況にあり、どれだけ効果があったのか把握するのは難しい現状です。事業費の内訳は、大垂幕について広告掲出設置等で 183 千円、大型映像装置による広告は 324 千円を事業費としてみています。

【委員長】 町の宣伝費はこんなに少なくてもよいのか。

【説明員】 この事業で予算計上しているのは、特定の課として判断できない部分についてあげてい

ます。例えば龍神マラソン等のイベントは商工観光課で計上しています。他の課でいろいろやっていますが、今現在、この事業ではこれだけの事業費でやっています。

- 【委員長】 民間だと利益に繋がるからだと思うが、もっと宣伝費はかける。企業全体を押し上げる、宣伝するという費用になると思うので、少ないような気がする。
- 【説明員】 PRであれば、他に町のホームページや Facebook 等でも発信しています。
- 【委員】 モンテディオの広告は他の市町村と一緒にやっているのか。
- 【説明員】 今年度、市町村として出しているのは庄内町だけで、他は企業の CM です。たまたま本町が継続しているので、その枠を使って放映できているのかとは思いますが。
- 【委員】 町で取り組んでいる月山ジオパークについて、来年度に向けてもっともっと関心をもっといただきたい中で、そちらに金をかけてはどうか。他市町をみると集中してやっている状況なので、どうせお金をかけるのではないが、町としても何に集中するか考えてやっていく必要があるのではないか。
- 【説明員】 昨年度からは、クラッセや町湯、八幡スポーツ公園の CM 放送をしていますが、内容を変えてジオパークの PR に繋げていくことは可能だと思います。
- 【委員】 庄内町は何が今必要なのか考える時期だと思う。
- 【説明員】 広告宣伝費なる予算は効果というのが一番大事だと思います。各事業にも広告予算がある中で、ここで事業効果を図るのは難しく、予算がつきにくいということもあります。ふるさと納税という制度もあるが、これは PR という経費は特にありませんが、庄内町としてはかなり PR 効果に繋がっているということもあります。実際に行う事業をいかに効果的に周知するかというのが重要になってきているのかとは思いますが。
- 【委員長】 情報発信シートは各課でつくって、情報発信課を通じてマスコミに流すのか。
- 【説明員】 各課でイベントがあった場合、各課で作成し、情報発信課で FAX するという事になっています。
- 【委員長】 その利用がまだまだ少ないということか。
- 【説明員】 すべてのイベントを情報発信シートとして提供頂けていないということがあるので、それが多くなれば、新聞等への掲載率もあがって来るのかと思っています。ただ、マスコミの都合もあるので一概に増えるということはないと思いますが、分母が上がれば掲載数もあがって来ると考えます。
- 【委員】 庄内町の話は山形新聞に結構載っていると思う。今後も続けていってもらいたい。
- 【説明員】 マスコミの関係者と面識を持って、連絡を取り合うというのも経費が掛からない方法。情報発信シートとともに、直接電話をして載せてもらうということも行っています。
- 【委員長】 懇談会はやっているか。
- 【説明員】 やっていません。
- 【委員】 鶴岡市には、情報発信シートのようなものがなく、これが庄内町のいいところだと思う。これがなければ、直接マスコミに連絡をする必要があるので、とてもいい制度だと思う。

■住みやすい地域づくり活動交付金 【情報発信課地域振興係】

- 【説明員】 平成 23 年度から始めている事業です。交付対象は 4 つあり、部落行事、維持管理、施設・設備整備、歴史民俗です。この中で 1 つ目の部落行事の中の支援事業が 3 つあり、部落行事に関するものは 1/2、上限 3 万円で実施していますが、毎年度初めに、自治会長や会計の方々にお越しいただいて、実績と計画を聴き取りさせてもらい、申請書等を提出してもらっています。やはり上限 3 万円という限度額でありながら、領収や決算を提出してもらって確認しています。この作業について、集落の方に手間暇のかかる事務となっていたので、新年度に向けては、今年度中に各集落にどのような形がいいか聴き取りをした結

果も見ながら、事務手続き作業を軽減する方向で調整しているところです。

【委員】 住みやすい地域づくり活動交付金の申請が、11月初めまでの提出であった。10年ぐらい同じ文面のところがあったが、備考欄を読むと対象になるかどうか分からなかった。文面を変える場合は、あやふやな言葉を使わないようにして、集まる機会に説明する等をしてほしい。

【説明員】 大きい変更の場合は、説明する場も必要だと思いますし、軽微なものは説明を文書で付け加えるなど、誤解のないように配慮はしていきたいと考えています。

【委員長】 平成30年から、均等割と世帯割にするとうるが、それに検討しようとした背景はなにか。

【説明員】 町内会の方での資料を整える手間を減らす方法がないかと考えたところです。

【委員長】 それをやった場合には、街路灯の電気代や公民館建設等の助成は無くなるということか。

【説明員】 そちらには変更を考慮しておらず、集落行事についてのみ考えています。10年の実績を見て、ほとんどの集落が上限3万円を使ってきているので、小さい集落であってもそれを割らないこととして、均等割と世帯割という単純な算出方法で、集落の負担を少なくすることとで考えました。

【委員】 自分も経験したことはあるが、3万円の補助のためはかなり申請が煩雑だ。

【委員】 何集落ぐらい申請をあげてくるのか。

【説明員】 全集落あげてきます。

【委員】 だとしたら、実績の写真があればよくて、申請はいらないのではないか。

【説明員】 できるだけ簡略化するように努めていきます。

5 その他

第3回行政改革推進委員会 平成29年11月8日(水) 18:30～ 役場西庁舎第二会議室

第3回行政改革推進委員会 平成29年11月13日(月) 18:30～ 役場西庁舎第二会議室

6 閉会

(21:00)